

菅又厚美作 「気になる関係」

(効果音) (終業のチャイム)

山田政美 やったー！ やっと放課後だ。

奥山貴子 行こう。

政美 あのさあ、部活はいいんだけどさあ。

貴子 何よ？

政美 わたし、思うんだけど、宮沢先輩と高柳先輩って、仲いいの、悪いの、どっち？

貴子 知らなーい。だって、クラスでもいつも一緒にいるんでしょう？ 悪くはないんじゃない？

政美 わたしは、本当は悪いと思うな。

貴子 えー、どうしてえ？

政美 だって、宮沢先輩って、中1の時から、藤橋先輩と付き合ってたさ、今年で2年目で、見せつけられて困るほどなのにさ、藤橋先輩、このごろほんとは高柳先輩のこと、好きなんでしょう？

貴子 ああ、そのことね。うーん、わたしはどっちでもいいと思うけどな。

政美 わたしはイヤだな、そういう感じの半端は。今日の部活も実は楽しみなんだあ。だって宮沢先輩、昨日イライラしてたもん。たぶんね、藤橋先輩が、高柳先輩のこと好きだってことに気づいたんだよ。

貴子 あんた、よく人のこと見てるねえ。あきれた。

政美 大体ね、わたしは、入学して部紹介の時に、宮沢先輩が、この陸上部の話した時から、気に入らないのよ。だってさ、本当は唯一、一人の男子部員の藤橋先輩が部長で、高柳先輩が副部長なんでしょう？ それなのに、宮沢先輩、でしゃばってさ。わたしは高柳先輩みたいな人って好きだから、もう断然二人の仲応援しちゃうつもりだったんだけど、宮沢先輩が彼女だなんて、藤橋先輩も相当頭がやられてると思うんだ。

貴子 そうか。山田君、高柳先輩が好きなの。それでいつもライン引きの手伝いとか進んでするわけ。

政美 貴子はどうなのよ？

貴子 わたし？ わたしは、あんまり女の先輩は好きになれないなあ。やっぱり、水泳部のあの肉体美を毎度さらけ出してる、吉川先輩のほうがいいな。

政美 さらけ出す…。すごい。でも中身までは分かんないじゃない。あんた、吉川とかいう人と話したことあんの？

貴子 (あっさりと)ないわよ。

政美 自慢げにいわないで。疲れる。後輩からはよく見えても、先輩はしよせん先輩、

一緒に生活してないんだもの、分からない部分って多いと思うな。わたしは、あのトイレのマークのような逆三角形の肉体を見ても、美とは感じないね。

貴子 あ、そうですか。はいはい。 分かったわよ。そんなに高柳先輩がいいなら、「お姉様ぁ」とか言って、レズにでもなっちゃえば？ 先に部屋行くからね。

政美 薄情もーん！ 今日わたし、掃除当番なんだからねー、もう。手伝っていかないなんて…。

ナレーション 山田政美と奥山貴子は青春中学 1 年生。仲良く陸上部に入って、都大会を前に練習に汗を流しているのですが、先輩の評価を巡って、どうやら意見が分かれています。

(効果音) (部室のドアが開く)

貴子 こんにちはぁ。

藤橋誠 ああ、奥山。

貴子 どうしたんですか？

誠 いや、別に。あれ、山田は？

貴子 あ、山田君は、掃除当番で少し遅れます。

誠 ああ、分かった。頼みたいんだけど。

貴子 はい。

誠 副部長が来たら、おれは、予算のことで部長会に出てるからって伝えといてくれ。

貴子 はい。

ナレーション 声の主、藤橋誠は、青春中学 2 年生。陸上部の部長で、宮沢幸子と中 1 の時から恋人同士であったのですが、誠は、中 1 の 2 学期ごろから、高柳和美という、クリスチャンで陸上部の副部長であり、幸子の親友の女の子に引かれていたのです。今日ものそのことで、誠は人知れず悩んでいたのです。そこへ入ってきたのは、宮沢幸子でした。

(効果音) (ドアの開く音)

幸子 あれ、誠は？

貴子 はい、あの、予算のことで、部長会に行きました。

幸子 ふーん。何かわたしに伝言していかなかった？

貴子 いいえ。

幸子 そう…。じゃ、もう少ししてからまた来るね。

貴子 はい。(モノローグ)なんじゃ、ありゃ？「わたしに伝言していかなかった？」だって。バーカ、「あるわけねえよー」だ。あ、わたし、山田に似てきちゃったみたい。

和美 あ、奥山さん。早いよね。

貴子 あ、高柳先輩。

和美 山田君は？
貴子 はい、掃除当…。
政美 (オフ)高柳先輩、こんにちはぁ！ さあ部活だ部活だ。
貴子 終わったぁ？
政美 サボったぁ。
和美 ああ！ これはいけないやつめ！
政美 違いますよ、先輩！ 掃除早退をただけです。
和美 バックレ！
政美 当たり！
貴子 わたし、来週当番。それもトイレ！
政美 早退に限る。
和美 ダメだよ。一日ぐらいはちゃんと…。
政美 はーい！
貴子 あ、先輩。部長は部長会に出席のため…。
和美 あ、予算のね。
貴子 はい。
政美 早くライン引きしよう。昨日、雨降ったからね。
貴子 うん。あ、ねえねえ山田君。
政美 何？
貴子 さっきね、部長の行ったあと、宮沢先輩が来てさあ、「わたしに何か伝言してなかった？」とか、自身ありげに言ってんの！ もう笑っちゃったぁ。
政美 笑ってやった？
貴子 ううん。そんなの、まともにやったらランチもんだよ。
政美 わたしは、ああいう人は嫌いなものよ。
貴子 わたしも、なんか、イヤになってきちゃった。
和美 幸子がどうしたの？
貴子 …。
政美 わたし、この際だから言っちゃう。わたし、宮沢先輩って好きじゃないんです。
和美 それは、山田さんが幸子のいい部分を知ろうとしないからじゃない？
誠 ねえ。
和美 わ！ ビックリした。藤橋君、どうしたの、部長会？
誠 終わったよ。
和美 そう。
誠 山田、奥山、ちょっと外に出てくれないか。
二人 はい(外に出る)
和美 何？

誠 高柳、おれ、幸子って女が分からないんだ。

政美 (外で)ねえ、何かなあ？(そっと中に聞き耳を立てる。)

貴子 盗み聞きなんて... いいと思う！

政美 聞こえる？

貴子 うん、なんとか。

誠 幸子って、確かに何か人を引き付けるものを持っているんだよ。でも、何かおれの思っていたものと違うんだ。このごろ、幸子の存在が、うっとうしくて。そんな時、君がいると....。

和美 でも藤橋君、ずーっと幸子のこと、好きだったんでしょう？

誠 うん。でも今はおれ、君のほうが....。

和美 「好きだ」って言うの？

誠 ああ。

和美 藤橋君、ちょっと聞いて。そりゃわたしだって、「好き」って言われればうれしい。藤橋君のわたしに対する気持ち、そして、そのことでこのごろ悩んでるらしいこと、わたしも薄々気がついてた。でも藤橋君、好きとか嫌いとかって、そんな簡単に変えられるもの？

誠 そりゃおれだって悩んださ。だからなかなか言い出せなくて苦しんだんじゃないか。

和美 うん、それは分かる。でもちょっと気になったのはね、さっき幸子のこと、「うっとうしくなった」って、藤橋君 言ったでしょ？

誠 ああ。おれたち、周りからも、「あの二人は」って認められてるし、あいつも、もうおれはあいつのものだって思ってるから、どんなことでも「誠、誠」って言うてくるわけよ。こっちだって時には独りでいたいときもあるし、勉強で忙しい時なんか、あんまりくだらないことでベタベタまつわり付かれると、つい....。

和美 それは藤橋君、ちょっと言いすぎよ。幸子は本当に藤橋君のこと好きなのよ。だから、どんなことでも、うれしいことも、悲しいことも、大きいことも小さいことも、藤橋君と一緒に分かち合いたいと思うんじゃない。それを“ベタベタ”なんて...。もっとも、それが男と女の違いなのね、たぶん。教会の先輩が言ってた。

誠 えー、君、教会の先輩とそんなこと話すの？

和美 話すわよ、どんなことでも。ほんとのこと言うとね、藤橋君のことで、ちょっと聞いてみたの。「こんなとき どうしたらいいんですか？」って。

誠 えー、おれの話しをしたの？

和美 そうよ。藤橋君があんまりこのごろ深刻そうだったから。幸子と藤橋君のこれまでのこと、藤橋君のわたしへの気持ち....。いろいろアドバイスしてくれたけど、「最後は自分で決めなさい」って。

誠 ふーん。

和美 それでね、わたしの気持ちを言うと、藤橋君の好意はうれしいけど、わたしははっきり言って、藤橋君のこと、お友達以外にはなんとも思っていない。それより藤橋君、幸子のことはまだまだ知らなすぎる。幸子は、わたしにはないいいところいっぱい持ってる。本当にお付き合いをするつもりなら、お願いだからもっとまじめに、彼女の気持ちを受け入れてあげて。そして、お互いに相手のいい点を見つけ合ったり、男女の考え方の違いが分かったりしながら、二人で成長していってほしいの。

誠 ……分かった。できるかどうか分かんないけど、努力してみるよ。

和美 よかった。藤橋君、なんて言うかと思って。一生懸命祈ってたの。

政美 先輩！

貴子 先輩！

誠 あれ、お前ら…。

和美 聞いてたのね。

政美 スミマセン。わたしたち、先輩たちの関係気になってたんで、つい…。わたし、宮沢先輩のこと、あまり好きじゃなかったんだけど、でも高柳先輩の話を聞いて、先輩のことよく知りもしないのに、あれこれ言って悪かったと思っています。

貴子 わたしも。でも高柳先輩の言葉で、スッキリしました。藤橋先輩、宮沢先輩戸のこと、頑張ってください！

誠 あ… ああ。おい、あまり先輩を冷やかすなよ。

貴子 ゴメンナサーイ。

政美 高柳先輩、先輩の行ってる教会、行ってもいいですか？

和美 お！ 大歓迎よ。もち、貴子も一緒ね。幸子も今度の日曜、来るの。藤橋君もどう？

誠 えー。…うん、考えとく。

和美 さ、それじゃ練習ね。大会は目前よ。今日は 1000 メートルのタイムを計るから。ほら部長、しっかりしっかり。わたしたち 3 人は先に行くね。着替えたら、速攻！（F0）

ナレーション 山田君と貴子は、高柳先輩のあとを全力疾走しながら、先輩たちと一緒に過ごす初めての教会の様子をふっと思い浮かべたのでした――。

< 完 >